



長崎県技術士会

令和6年 7月10日発行・責任者 山口 和登

令和6年度通常総会報告

長崎県技術士会 会長 山口和登

6月8日、諫早市のホテルセンリュウにて、令和6年度通常総会を43名の会員出席（欠席者の委任状・先行議決権行使者は75名）のもと開催し無事終了しました。その後、公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部年次大会、そしてCPD研修会を開催しました。引き続き交流会を開催し盛会のうちに終わることができました。交流会は研修会講師2名を含め、今回36名の参加者となりました。ご協力ありがとうございました。

総会の議事内容については会員各位には事前に周知済みでありますので、ここでは総会の概略状況をご報告申し上げます。

総会開会前に昨年の総会后、今回の総会までに亡くなられた長崎県技術士会会員4名を悼み、皆で1分間の黙とうを捧げました。

総会は川村副会長の総会成立（会員総数の3分の1以上の参加で成立し、今回は委任状等を含め118名の参加）宣言の後、第1号議案から第6号議案の審議及び報告事項の説明が行われました。

1. 総会議案

第1号議案：令和5年度事業報告

原案の通り承認

5年度の主な実績は、①昨年6月の総会開催 ②役員会の年6回の定例開催 ③昨年度6月、9月、11月、1月の4回のCPD研修会（現場見学会はコロナ対策の為に中止）の日本技術士会長崎

県支部との共催による実施、長崎地盤研究会の勉強会・ジオラボの後援団体として年4回の勉強会、1回の現場見学会に参加、産業基盤維持管理技術研究会の講演会（6月、8月、1月の3回）、現場見学会（3月の1回）への参加 ④機関紙「APREN」の年4回発刊配信、会員名簿5年度版の作成（350部）、そして会員及び関係機関に配布 ⑤会員の増強、令和6年5月現在の会員数194名で会員都合による退会、逝去のための退会があり、新入会員が13名と多いにかかわらず、昨年から8名増の会員数となりました。

⑥その他、長崎大学における技術士会による第9回講義の実施：受講大学生41名、長崎大学工学部外部評価委員会への参加等です。具体的には長崎県技術士会のホームページ、機関紙「を参照してください。

第2号議案：令和5年度収支報告及び監査報告

原案通り承認

具体的な金額等は紙面の都合上ここでは省略しますが、議案書において周知した通りです。詳細は議案書（事前に全会員に配信済）をご参照ください。会計監査は3/21（木）に監事2名により実施され、すべて適正に処理されていることが確認され、その結果が総会で横山監事により報告されました。

第3号議案：令和6年度事業計画（案）

原案通り承認

6年度の主な計画は、①総会及び役員会の定例開催 ②長崎県技術士会・日本技術士会長崎県支

部共催の研修会の年4回開催、現場見学会の年1回開催 ③ジオラボ（長崎県技術士会後援）への年4回の勉強会参加、年1回の現場見学会参加、産業基盤維持管理技術研究会への年3回講演会、年1回見学会参加 ④機関紙の年4回の継続発刊配信、会員名簿は昨年同様の350部作成・配布、会員名簿のホームページへの掲載 ⑤長崎大学との連携強化、学生を対象とした第10回目の講義への講師派遣、長崎大学工学部外部評価委員会への参加、他技術機関との連携 ⑥県技術士会の活性化：ホームページの更なる改編・充実を実行し、積極的な情報開示・会員募集、増員を図る等です。



写真1：総会状況

第4号議案：令和6年度収支予算（案）

原案通り承認

第3号議案を遂行するための予算案を作成、提案しました。具体的な金額はここでは紙面の都合ここでは省略しますが、総会時に議案書で提示した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

第5号議案：長崎県技術士会会則等一部変更（案）

原案通り承認

改定内容の主な点は

1：変更内容

長崎県技術士会の会則は「会則」「細則」「慶弔規定」「会長選挙規定」からなるが、その内「慶弔規定」は諸事情から廃止するものとする。

諸事情とは

① 会費免除者（名誉会員、日本技術士会会員）が多くなり、不公平感が感じられること

② 免除者が多くなり予算収支上、会の運営・管理が厳しくなってきたこと

③ 会員の情報（慶弔関係）の迅速な把握が難しくなったこと等があげられる。

会則の詳細は会員名簿に記載している長崎県技術士会会則またはホームページに掲載している長崎県技術士会会則を参照ください。

第6号議案：創立50周年記念事業（案）

原案通り承認

1：開催要領

長崎県技術士会は昭和50年（1975年）に創立されました。この為、令和7年（2025年）長崎県技術士会創立50周年に当たる為、「長崎県技術士会創立50周年記念事業」を開催することを計画する。

1) 祝賀会等の開催日時は令和7年度通常総会時に開催する。

2) 開催要領等は令和6年度中に役員会で詳細に検討し、計画する。

3) 長崎県技術士会創立50周年記念誌を刊行する。内容等については役員会で詳細に検討し、計画する。

4) 記念事業費用は賛助会費を募集し、記念事業の費用に充てる。詳細については役員会で検討し、計画実行する。

5) 記念事業にかかる収支費用は特別会計とし、

余剰金は一般会計に組入れ、不足金は繰越金（予備費）から支出する。

6) 収支報告については次年度（令和8年度）の総会で報告する。

報告事項

今年度は役員変更のない年であるが、昨年度の総会で承認していただいた役員構成の内、欠員（本人死亡）が生じた為、その報告を行いました。欠員となられた役員は岡林隆敏顧問及び清水富夫理事で、その他の役員構成の変更はありません。

2. 日本技術士会長崎県支部年次大会

長崎県支部の年次大会は山口昭光支部長の挨拶の後、以下の報告がありました。

1. 令和5年度事業実績

4回のCPD研修会実施

2. 令和5年度収支報告及び監査報告

収入 1,195,122 円、支出 955,691 円、次年度繰越 239,431 円

会計幹事による監査報告（3/21実施）

3. 活動方針

会員状況報告、支部活動方針、支部役員構成、事務局

*役員構成は長崎県技術士会の会員名簿等を参照ください。

4. 令和6年度事業計画

4回のCPD研修会、1回のCPD見学会の計画
その他

5. 令和6年度収支予算案

収入 1,085,932 円、支出 1,061,152 円、次年度繰越 24,780 円

6. その他報告

「農水省における技術士（CPD認定）の活用例」についての説明他



写真2：支部年次大会状況

3. CPD研修会

2名の講師による下記の演題でCPD研修会を開催しました。

演題①：「半導体の基礎と応用、長崎県における半導体人材教育の取り組み」

講師：大島多美子長崎大学総合生産科学域（工学系）教授

演題②：「気づきと技術者倫理」

講師：堀田源治九州工業大学工学部機械知能学科客員教授

各講師による講演終了後、活発な質疑応答が行われ、充実した研修会となりました。研修会内容の詳細は報告をまとめているので、そちらをご参照ください。

4. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。新規合格者5名、研修会講師の2名を含め36名が参加しての盛大な交流会となりました。交流会においては長崎県技術士会の監事である清水正明氏の音頭のもと乾杯し、令和5年度新規合格者の自己紹介、参加者相互の近況報告等の意見交換を行い、最後は長崎県技術士会副会

長の川村昭宣氏の発声もと万歳三唱を行い、楽しい交流会となりました。

以上総会報告を行いました。まだまだ、新型コロナウイルスの感染の脅威は完全に去っていませんが、会員各位のますますのご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。



写真3：交流会状況



写真4：新規合格者5名
(左から) 松原武志氏、待永正浩氏、馬場一孝氏、
村田昌敏氏、山口昌紘氏

以上

令和6年度第1回CPD研修会報告

兒玉技術士事務所 兒玉英治（環境部門）

6月8日(土)、長崎県支部第1回CPD研修会を下記内容で開催したので報告します。

開催場所：ホテルセンリュウ

参加者：53名

【演題1】「半導体の基礎と応用、長崎県におけ

る半導体人材育成の取り組み」

【講師】長崎大学大学院総合生産科学域（工学系）、教授 大島多美子先生

【内容】1. 半導体とは？

半導体とは、電気をよく通す導体と電気をほとんど通さない絶縁体の中間の性質を持つシリコンなどの物質や材料のことである。半導体は、増幅機能、スイッチ機能、変換機能の3つの機能を持つ。半導体のメリットとして、小型化・軽量化、低コスト化、省電力化、処理の高速化が挙げられる。

2. 半導体産業の市場動向

世界のGDPと半導体市場には相関がある。半導体市場はデジタル革命の進展に伴い右肩上がり成長している。

3. 日本、九州、長崎における半導体産業振興の取り組み

日本においては、2021年6月に「半導体・デジタル産業戦略」が策定（2023年6月改定）された。九州においては「九州半導体人材育成等コンソーシアム」が2022年3月に設立された。また、半導体大手TSMCが熊本に進出した。但し、深刻な人材不足がある。長崎においては、「ながさき半導体ネットワーク」が2022年2月に設立された。これは産学官で構成されている。



写真5：大島多美子先生

4. 長崎県における人材育成の取り組み

長崎工業高等学校では、2024年度に「半導体製造技術」学校設定科目を新設した。佐世保高専では、2022年度に「半導体工学概論」「半導体デバイス工学」を新設した。

5. 長崎大学における人材育成の取り組み

2023年11月16日に「国立大学法人長崎大学総合生産科学域マイクロデバイス総合研究センター（CAMRIS）」が設立された。

ここでは、社会貢献・社会実装を意識し、マイクロデバイスの設計、製造、活用に関する研究を通し、研究連携、人材育成、拠点形成を行う。

CAMRISでは、学際的研究科設立と半導体関連講義を行う。なお、半導体産業は長崎県の経済活性化と雇用創出に大きく寄与する可能性がある。

【所感】 今後は、CAMRISを設置した効果が出ることを期待したい。

【演題2】「気づきと技術者倫理」

【講師】 九州工業大学機械知能工学科客員教授、技術士機械部門 堀田源治先生

【内容】 <はじめに>

演者は企業（日鉄エレックス）や高専での技術者倫理教育の時間「社会への責任についての気づき」についての講習・実習を行ったので、技術者倫理教育を考える事例として報告をする。

1. 大学・高専における技術者倫理教育の特徴

技術者倫理教育の主な授業手法として、講義：979件、事例研究：234件、グループディスカッション：148件等がメインである。

また、技術者倫理に関する意識の経年変化を見た場合、卒業後の年数が経過するにつれ倫理意識が低くなる傾向がある。



写真6：堀田源治先生

2. 技術者倫理教育における「気づき」とは本当のことが言えない自分や周囲への「気づき」がある。管理者は生産第一、経営者は収益第一主義等、安全規則は存在すれども効果が無い。

3. 「気づき」の大切さに「気づかせる教育」

教員と学生をモデルとして、社会への影響、効果の理解及び、役割、責任に関する理解を対象としている。また、新しい気づき教育の提唱が行われている。

4. 企業における技術者倫理教育の事例

（1）産業現場の技術者倫理

スタッフ側とライン側では、労働観、価値観等が異なる。

（2）技術に携わる者の倫理は、公衆の声に耳を傾けることである。

（3）現場における技術者倫理として、次の2事例を挙げている。

【事例1】JR機関士の安全運転

【事例2】自動車部品メーカー検査担当員の形式押印拒否（めくら印を押すこと）。

5. 高専における技術者倫理教育の事例

有明高専授業での結果：浄水器の制作という課題において、住民の声に接した5年生は、「公衆の声を意識する必要がある」という気づきを得たが、座学のための4年生には、この気づきは起こらなかった。

【所感】有明高専の実習教育後の学生に対するアンケートにおいて、ものづくりで最も大切な項目が「技術」よりも「社会への責任」であるという

結果が得られ、気づき教育としての成果が得られたことは意義深いと感じる。

(了)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

- (1) 会員の訃報-謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

小松和彦(建設・総監) 2024/5/14(79歳)

- (2) 新入会員の紹介(4~6月承認)

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	松原武志	建設	(株)九州建設設計計画エンジニアリング
A会員	森本貴大	森林	(株)アールデ
A会員	山本奉彦	農業・建設	扇精光コンサルタンツ(株)
A会員	馬場一孝	建設	(有)吉川土木コンサルタント
A会員	村田昌敏	建設	三菱重工業株式会社
A会員	西行健	建設	株式会社PAL 構造
A会員	山元崇	機械	三菱重工業株式会社
A会員	山口昌紘	建設	扇精光コンサルタンツ(株)
A会員	待永正浩	建設	(公財)建設技術研究センター

- (3) 令和6年度版長崎県技術士会会員名簿について

会員名簿の作成は6月の総会で承認された仕様に基づき、現在編集中ですが、昨年度からの変更点は新入会員の追加、退会会員の削除、会則の一部変更です。新入会員以外の会員で勤務先や所属先の変更のある方で、情報配信局に通知されていない会員はお知らせください。会員名簿は7月中に編集を終わり、8月には会員各位にお届けする予定です。

- (4) 長崎県技術士会創立50周年記念誌の刊行

6月の総会で承認いただきました記念誌の刊行を準備中です。今後、会員各位に記念誌への投稿や資料提供、協賛広告等をお願いすることになると思いますのでよろしくお願い致します。内容の詳細は未定ですが、来年度の会員名簿と記念誌は別冊で作成することが役員会で決定しました。今後、詳細が決まりましたら適時お知らせいたします。

編集代表&連絡先
N. ソノダ技術士事務所 代表 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com